



# 青梅総合医療センター通信'24年版

2024(令和6)年12月15日発行

発行 市立青梅総合医療センター 事務局総務課・広報サービス委員会

## 市立青梅総合医療センターの現状とこれから

院長 大友建一郎



### 1) 新病院整備事業の現状

令和2年に始まった新病院整備事業は、1)救命救急センターのさらなる強化、2)高度急性期医療・高度専門医療の強化・拡充、3)災害に強い病院、4)地域の人々や職員に愛される病院、5)環境に配慮した病院、6)病院運営をしながらの安全かつ合理的な建て替え、の6つの方針に基づいて施設整備を行っています。その一つの節目として新病院本館が令和5年11月に稼働して1年あまりが経過しました。整備事業の1番目の柱である救命救急センターのさらなる強化については、救急外来を本館1階東側にCTやMRI、血管造影室、内視鏡室などと隣接して配置し、屋上のヘリポート、3階の救命救急センター病棟と集中治療室、手術室、心臓カテーテル室などは専用エレベーターで直結して、脳卒中・心臓血管疾患を含む多様な救急患者さんへの迅速な対応が可能となっています。救命救急センターの受入れ数は、令和4年度の総数17,400人・救急車4,300台から令和5年度は総数20,400人・救急車5,656台と著増し、今年度も毎月平均して1,700人の患者さんと救急車480台を受け入れています。大型機が離着陸可能となったヘリ救急は、稼働から1年で前年度の10倍近い40機の受入れを行いました。

手術室では、手術支援ロボット(Da Vinci)による手術が、外科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器外科で開始となっており、手術台とX線透視装置を兼備したハイブリッド手術室では、循環器内科が、従来は開胸手術で行っていた大動脈弁狭窄症の弁置換手術を足の血管からカテーテルで行う経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)として行っているほか、心臓血管外科、整形外科がX線透視装置や3次元イメージ装置による手術を行っています。これらの手術の詳細については2面、3面をご覧ください。

4階から8階の病棟エリアでは、病棟を心臓血管・消化器・呼吸器・脳神経など臓器別にセンター化して、内科と外科が一体となって治療を行っています。白血病の治療など強力な化学療法時に必要となる無菌病床は従来の4床から12床に拡充して、多くの血液の病気の患者さんの受入れを行っています。

### 2) 新病院整備事業の今後

現在は、これまで救命救急センターがあった西側の「旧新棟」を改修し、本館との間を渡り廊下棟で結ぶ工事を行っています。渡り廊下棟は令和7年4月に使用を開始する予定で、1階には講堂を整備して、市民健康講座をはじめとしたさまざまな催し物を行いたいと考えています。旧新棟は令和7年6月に西館として使用を開始する予定で、3階には従来の血液浄化センターに加えてリハビリテーション室が、4階には精神科病棟が移転します。5階には新しく緩和ケア病棟を開棟する予定です。

西館が開棟した後は、残っている旧東棟・旧西棟を解体し、駐車場とする外構整備を行う予定で、令和9年度のグランドオープンを目指して、安全に工事を進めてまいります。

### 3) 医療の質の向上

当院の理念は「快適で優しい療養環境のもと、地域が必要とする高度な急性期医療を安全かつ患者さんを中心に実践する」であります。新病院本館が稼働して医療の設備面は格段に向上しました。新しい療養環境において質の高いチーム医療が患者さんを中心に提供できるように、今まで以上に医療の質の向上を図っていきたくと考えております。当院の医療の質を外部の第三者に評価してもらう目的で日本医療機能評価機構の病院機能評価を令和7年2月に受審する予定です。これまでも5年ごとに受審をしており、今回が6回目の更新受審となりますが、認定更新に向けて職員一同準備を行っています。

また、新病院になって患者さん・ご家族から職員の接遇に関するご意見を多くいただくようになりました。医療は基本的にサービス業であり、質の高い医療を提供することは当然ですが、同時に患者さん・ご家族に満足していただくこともとても大切であると考えています。患者さん・ご家族への接遇の向上とともに、職員間のコミュニケーションの向上を目指して、本年3月より

病院職員による「よかった、この病院で」プロジェクトを開始しました。「よかった、この病院で」は、新病院本館開院に併せて使用を開始した病院ホームページのキャッチコピーです。患者さん・ご家族が「この病院にかかってよかった」、職員が「この病院で働いてよかった」と思える病院を目指して、安全・安心な医療を提供できるよう今後も努力してまいります。これからも市立青梅総合医療センターをよろしくお願いたします。



多摩川からの鳥瞰図 手前右が本館、その奥が取り壊し予定の旧東棟・西棟、左奥が改修中の西館(旧新棟)、クレーンは渡り廊下棟の工事



グランドオープン予想図

## 市立青梅総合医療センター院長テレホン

病院運営などについて、ご意見やご要望などを院長が電話でお受けします。詳しくは、「広報おうめ」毎月1日号をご覧ください。

## 青梅市生涯学習まちづくり出前講座

西多摩地域における当院の役割と新病院整備事業について、院長が出前講座をいたします。詳しくは、青梅市教育委員会ホームページをご覧ください。

## 乳がん手術と乳房再建について

令和4年度より形成外科に、令和5年度より乳腺外科に、それぞれ常勤医師が赴任して外来・入院・手術を行っております。

### 乳腺外科より

“マンモグラフィは、痛いから避けていた。”  
“痛くないから、しこりがあったも、大丈夫だと思っていた。”  
“閉経したら乳がんにならないと思っていた。”

実際の患者さんから、よく伺うお話です。乳がんは、毎年9万人ほど発症し、女性の中で最多です。がんの中では、発症年齢は早い方で、40-60歳代がピークです。乳がんの領域は、治療の発展が目覚ましく、転移があっても仕事と治療の継続が可能なる方も増えています。

しかしながら、がんの予防から治療の基本となる、検診・画像診断・病理診断・薬物療法・放射線療法・手術の重要性に変わりはありません。

当科は、地域がん診療連携拠点病院の診療科として、がんの治療を中心に基本を大切に診療しております。そして、全人的に患者さんに対応できるよう、チーム医療および地域連携を重視しております。

### 形成外科より

形成外科において乳がん切除後の乳房再建術を行っており、当院では主に2つの方法をご提供しております。

まず、人工物(シリコンインプラント)を使用した再建術で、自然な見た目と触り心地を目指します。

また、自家組織を利用する再建術としては、広背筋皮弁を行っております。これはご自身の体の組織を活用するため、より自然な結果を得られる場合があります。いずれも保険診療にて行うことが可能です。

さらに、その他の治療法をご希望の場合や、より専門的な治療が必要な場合は、信頼できる専門機関へのご紹介も行っております。

いずれの科も、女性医師が担当しております。  
気になることがございましたら、遠慮なくご相談ください。

# 【進化し続ける医療機器】

医療は日々進化し、医療機器によって治療が広がる例も多くあります。今号では、新病院開院と共に導入した「手術支援ロボット～Da Vinci～」と「ハイブリッド手術室」について、ご紹介いたします。

## ●手術支援ロボット～Da Vinci（ダビンチ）～



### 「万能の天才」と称される レオナルド・ダ・ヴィンチ

その名にちなんだ医療用手術支援ロボット「ダビンチ」は米国インテュイティブ・サージカル社が開発し、1999年にヨーロッパで運用が始まり、2009年に日本でも薬事承認されました。2024年1月の時点で、日本全国で700台以上（世界第2位の保有台数）、世界70か国で8,800台以上が導入され、各施設でダビンチ手術が行われています。なお、2023年の1年間に全世界では約220万人の方がダビンチ手術を受けたとされています。当院でも、このダビンチ手術をすでに導入しております。

ダビンチ手術から始まったロボット支援下手術は、開腹・開胸手術や腹腔鏡・胸腔鏡手術などの従来の外科手術の欠点を補って、精密な手術が可能だと認識されるようになり、そのメリットの大きさから、全国の主要な病院で次々と導入され、近年では海外製のダビンチに対抗して、国産ロボットの製造・拡販も急速に進められています。ダビンチ手術の黎明期には、保険も効かず、適応となる疾患も限られていました。現在では、例えば大腸がんでは、2018年に「直腸切除・切断術」、2022年に「結腸悪性腫瘍手術」が保険適用（＝保険が効く）となり、全ての大腸がんの患者さんに保険適用が拡大されています。全国的に主として、泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科、産婦人科でダビンチ手術が行われていますが、各科領域で様々な疾患に対して行われるようになっています。

### ロボット支援下手術の特徴

手術支援ロボットといっても、自分の意思・思考を持ったロボットが自分の力だけで手術してくれる訳ではありません。かつての人気アニメ「機動戦士ガンダム」や「マジンガーZ」のごとく、パイロットである外科医がロボットの4本の腕（アーム）を遠隔操作して行う手術です。1本は高性能カメラで手術の目となり、他3本が実際に手術操作をする手や指となります。以下に、手術操作上の長所を挙げてみましょう。

- ①パイロット席（＝コンソール）に着き、高画質3Dカメラ（＝ダビンチの目）をのぞいて見ると、患者さんの内臓が、鮮やかに立体的に拡大されて見えてきます。糸くずのような小さな血管が土管の如く大きく描出されます。この極上の視野を得ることで精緻な手術が可能です。
- ②手術操作をする手には、人間の関節をはるかに凌駕する器用な関節が備わっており、従来なら「可動制限があるので無理です」とされた操作が可能です。
- ③デジタルカメラには、「手ぶれ補正」が備わっています。いかに熟練の外科医でも、その指先には、程度の差はあれ（震えるわけでもなくとも）必ず微小なぶれが生じます。もちろん指先の震えは手術の精度に大きく影響します。ダビンチは外科医の指先の動きを補正し、全く震え・ぶれの無い、まさに“神の手”を再現してくれます。

昔々、手術の方法は、大きく胸やお腹を切り開いて行う（開胸・開腹）手術の一択でした。“Great surgeon, great incision”（偉大な外科医ほど大きな創で手術を行う）が長く叫ばれていました。

やがて外科手術は進歩し、低侵襲手術（患者さんにやさしい手術）すなわち胸腔鏡・腹腔鏡による小さな穴をあけて行う手術に大きく方向転換され、発展し、時代の趨勢となりました。この胸腔鏡・腹腔鏡手術につきまとう弱点を克服するツール、それがダビンチです。



### 「神の手を再現」



ダビンチを始めとするロボット支援下手術は、各外科系診療科の学会・大学病院・がんセンターなどでは、「ロボットありき」で手術が語られ、未来予想図として「ほとんどの外科手術はロボット手術になる」と言えます。1519年5月2日に亡くなった、天才レオナルド・ダ・ヴィンチは、こんな時代を予見していたでしょうか？もちろん、ロボット手術は外科医サイドの利点のみならず、です。手術をお受けになる方々の視点では、「今までよりもさらに小さな身体的負担で、質の高い手術を（多少、手術時間は延びるのですが）受けられる」となります。

我々は、安全第一のロボット手術を心がけ、当医療センターで手術をお受けになるすべての方々の利益や幸福につながるよう、日々精進努力してまいります。

\*各統計データ、一部画像はインテュイティブ・サージカル社のご厚意による  
\*インテュイティブ・サージカル社では daVinci関連の表記を「ダビンチ」で統一

## 当院診療科における取り組み

### 消化器・一般外科

胃がんに対する胃切除術と、（大腸がんのうち）直腸がんに対する直腸切除術をダビンチで行っています。新病院移転後より現在までの9ヵ月間に、胃がん12件、直腸がん20件と、順調に手術経験を積み重ねております。特に直腸がん手術では、病変が前立腺に及んでいるケースであっても泌尿器科と共同し、直腸切除・前立腺合併切除をダビンチで行った例もあります。機は熟し、結腸がんに対するダビンチ手術も開始予定です。

### 泌尿器科

当院にダビンチが導入されると同時に、前立腺癌へのロボット支援下前立腺摘除術を開始しました。1月より執刀経験の豊富なプロクターが赴任し、現在までに30件超のロボット支援下前立腺摘除術を安全に施行しました。また、2024年8月より新たに腎癌へのロボット支援下腎部分切除術を開始しました。

\*プロクター…ロボット支援下手術指導医



### 産婦人科

子宮筋腫、子宮腺筋症などのために子宮摘出を行う患者さんに対してダビンチ手術を行ってきました。従来の腹腔鏡手術と比べて出血量や手術後の痛みが少ない傾向があります。そのため入院期間を1日短くし、患者さんの入院負担も軽くすることができました。導入後1年間に当科でダビンチ手術を受けた患者さんは30人を超えました。早期子宮体がんに対する手術も開始し、より多くの手術をダビンチ手術で行う方針です。

### 呼吸器外科

肺腫瘍に対するダビンチ手術をはじめました。3Dカメラで映し出された鮮明な術野に、人の指先以上の動きをしてくれるロボットの鉗子を用いることで、まるで胸の中に入って手術しているかのような繊細で正確な手術が実現しました。創部の痛みも軽減され、手術の低侵襲化が期待されています。



## ●ハイブリッド手術室



### ハイブリッド手術室とは…

手術と画像診断・治療を同時に行えるように、手術台とX線透視装置の両方を兼備した手術室で、手術中にリアルタイムで画像を確認しながら治療が進める事ができます。これにより複雑な症例にも対応でき、また患者さんの身体に対して負担が少なく、迅速かつ正確な治療を行う事が可能となります。

地域の皆様に安全安心な医療を提供するために、新病院にハイブリッド手術室を新設し、現在様々な診療科やメディカルスタッフが協力してハイブリッド治療に従事しております。

## 心臓血管外科

皆さんは“ハイブリッド”車に乗っていますか？ 各種ハイブリッド車があって、日本でもさらに広がると言われていますね。“ハイブリッド”という言葉は「異なる種類のものを組み合わせた」という意味です（広辞苑）。ハイブリッド車とは2つ以上の動力源を持つ自動車の通称で、大抵の場合「ガソリンで動くエンジン」と「電気でも動くモーター」を備えた自動車を指すようです。

当科では「外科手術（直達手術）」と「血管内治療（カテーテル手術）」を組み合わせた“ハイブリッド”手術を行うことがあります。ここで言う「外科手術」とは、皮膚をメスで切って血管を直接触って行う昔ながらの手術のことで、「血管内治療」とは、皮膚を針で刺して血管の中にカテーテルを入れて遠隔で行う手術のことで、近年目覚ましい進歩をとげています。例えるなら「外科手術＝ガソリンエンジン」、「血管内治療＝電動モーター」になるでしょうか。どちらの手術法にも

利点・欠点がありますが、両者をうまくハイブリッドする（組み合わせる）ことで、複雑な治療を短時間で安全に行えることがあります。ただし、ハイブリッド手術を行うには、手術台と血管造影装置やCT装置を組み合わせた専用の手術室が必要です。

当院は新病院になり、高性能なハイブリッド手術室が新設され、すでに多くのハイブリッド手術を行なっています。血管バイパス手術とステント（ステントグラフト）治療や、血栓を取り除いた後に血管を広げたりする手術などがあります。

血管はとても個性的です。一概にハイブリッド手術といっても、「ガソリンエンジン」と「電動モーター」をどの割合でどのように使うかは、その人その人で変わってきます。当科では、安全かつ負担少なく手術が行えるよう、その人に合ったきめ細やかなオーダーメイド治療を心がけています。

心臓血管外科の手術なんて受けたくない！・・・でも、どうしても手術が必要になったときには、うまくハイブリッド手術も駆使して、燃費の良い安全運転による治療をさせていただきます。

### 具体例

＜動脈瘤に対する手術＞

胸部・腹部ステントグラフト内挿術（+バイパス手術）  
コイル塞栓術+動脈瘤切除術等  
＜下肢閉塞性動脈硬化症（動脈がつまる病気）に対する手術＞  
下肢動脈バイパス術+ステント留置術やバルーン拡張術  
動脈血栓内膜摘除+腸骨動脈などのステント留置術  
動脈血栓除去+血管造影検査・ステント留置等



## 循環器内科

当科では、透視装置を使った心臓や血管のカテーテル治療を多く行っており、ハイブリッド手術室は循環器疾患において大きな役割を果たします。

この手術室を活用し、主に2つの治療、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）と左心耳閉鎖術を行っています。

### 経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）

TAVIは重症の大動脈弁狭窄症（弁膜症の一つ）の患者さんに対して行う治療法で、胸を開かず血管内からカテーテルを使って新しい弁を心臓に装着する手術です。従来の開胸手術に比べて体への負担が少なく、特に体力が弱っている高齢者や、他の疾患を抱えているために手術リスクの高い患者さんにとって、非常に有効な選択肢です。ハイブリッド手術室では、手術中にリアルタイムでカテーテルを観察しながら進行を確認できるため、手術の精度が向上し、合併症のリスクを最小限に抑えることが可能です。また手術室としての機能も備えており心臓血管外科と協力しながら治療を行っているため、万一合併症が起きた際にそのまま

手術に移行する事ができます。

当院はハイブリッド手術室が新設された事で本年5月に西多摩医療圏で初めてTAVI実施施設の認定を取得し、今まで手術リスクが高いため治療が行えなかった重症大動脈弁狭窄症の方にも治療を提供する事が出来るようになりました。また開胸しないため術後の回復も早く、比較的早期の退院が可能となっております。

### 左心耳閉鎖術

心臓の左心房には左心耳と呼ばれる房状の小さな空洞がありますが、この左心耳は心房細動という不整脈の患者さんにおいて血栓が形成されやすい部位であり、この血栓が原因で脳梗塞などの重篤な合併症を引き起こすリスクがあります。一方で血栓を予防するための薬「抗凝固薬」は脳梗塞の発症リスクを低下させますが、出血のリスクが高まります。左心耳閉鎖術は、カテーテルを用いて左心耳の空洞を閉鎖することで、血栓の形成を防ぎ脳梗塞のリスクを減らす治療ですが、特に出血リスクが高く抗凝固薬の継続服用が難しい患者さんにとって、この治療は非常に有効です。

ハイブリッド手術室では手術中に経食道エコーとX線透視装置を用いて左心耳の立体的で詳細な情報を得ながら、正確・安全に左心耳を閉鎖することができま

す。

このように当科ではハイブリッド手術室によって従来の治療では対応が難しかったケースにも対応できるようになり、近年治療の選択肢が目覚ましく広がっています。今後も、患者さん一人ひとりの状態に最適で安全な治療を提供できるように努めてまいります。



TAVI治療

## 整形外科

当科において主に診させていただいている「せぼね」の病気ですが、せぼねの痛みや手足の痛みしびれ、歩きにくさの原因となる脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症、骨粗しょう症性椎体骨折、脊椎脊髄腫瘍、脊椎外傷など、年間200例を超える脊椎手術を行っています。

手術は怖い？高齢だから手術できない？などという質問をよく受けますが、痛みやしびれの原因を取り、何歳になっても自分で動ける体を維持することで、寝たきりになるリスクを減少できますので、しっかりと診断を受けていただき、タイミングを間違えないで手術を受けていただきたいと思います。

脊椎手術の基本は、適切な診断、患者さん一人おひとりに合った適切な手術方法の選択、そしてより安全で確実に負担の少ない手術を行う準備です。あとはそれに沿って、知識と経験を武器にチームで手術を精度高く実行する、ということになります。

今回新設された、ハイブリッドCTナビゲーションでは、手術中に高画質な画像を見ながら手術を行うことができますので、ここでご紹介します。

脊椎手術では、組織が体の深部にあるだけでなく、血管や脊髄神経が近くにあり、より安全で正確な手術が求められます。通常は、手術中にレントゲンを見ながら行いますが、くびや胸のうしろのスクリー、骨

盤のスクリーなどの挿入では、レントゲンでは見にくく、しかも挿入部位に1mm単位のピンポイントの正確性が求められることもあり、非常に高い技術と経験を要し、正確な手術が難しいと判断されて、手術を回避せざるを得なかった患者さんもいらっしゃいました。それがより新しいシステムに一新されたのです。

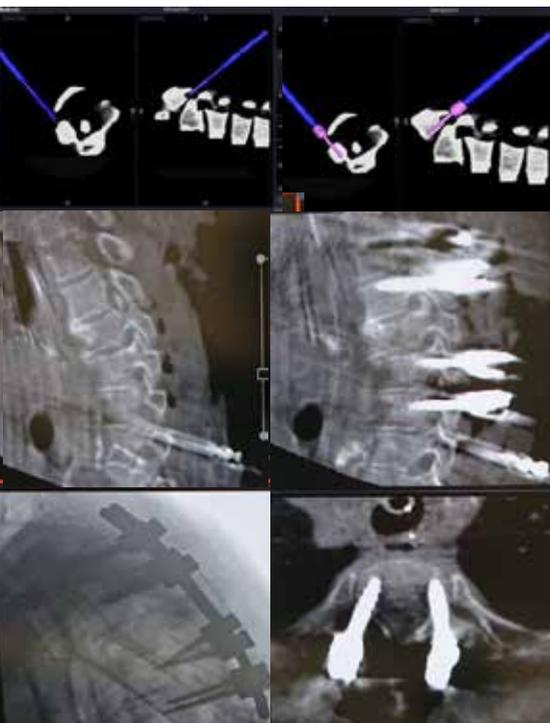
ナビゲーションシステムとは、対象とする骨と手術器具それぞれの3次元的位置関係が、ステレオカメラによって認識され、それぞれの位置を確認しながら正確に操作ができるようになるものです。しかも、今回のハイブリッド手術室では、手術中にリアルタイムのからだの位置を反映したCT画像を瞬時に合成して連動できるようになったのです。つまり、より高精度で高画質な画像だけでなく、正確性も格段に向上した「3DイメージングCTナビゲーション下脊椎手術」が可能となったのです。

昨年11月以降、60本以上の難しいスクリーを安全に正確に挿入してきました。非常に細い骨や、強く変形したせぼねへのスクリー固定を要した高難度手術にも良い術後成績が得られています。治療の精度と安全性の向上に本システムは非常に有効であり、これからも多くの患者さんのお役に立てると考えています。

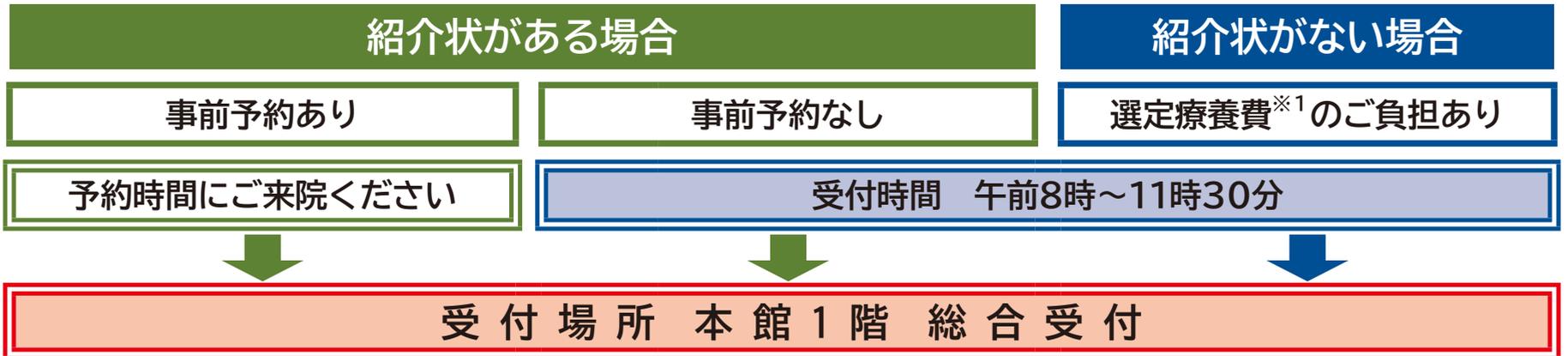
近年の手術技術の進歩は目覚ましく、当院も新病院開院とともに導入した「ハイブリッド手術室」「ロボット支援下手術」を新しい特色としています。今後もこのハイブリッド手術室を用いて行う、安全で、正

確で、効果的な脊椎脊髄手術をより多くの患者さんに提供できるよう精進してまいります。

背骨の疾患でお困りの皆様、安心してご相談ください。



## 外来のかかり方 当院を受診する方へー受付の流れについてご説明しますー



▶ 他院からの紹介状・書類をお持ちの方 各種書類は受付の際に1階 総合受付にお出してください。

▶ 当日の受診枠について 受診できる人数に限りがあります。定員に達した場合、時間内であっても受付を終了させていただきます。

**※1 選定療養費とは**  
当院は地域医療支援病院※<sup>2</sup>の指定を受けているため、他の医療機関からの紹介状を持参せず受診された場合、原則として診療費のほかに選定療養費(7,700円税込)をご負担いただくことが法令で義務づけられています。

**※2 地域医療支援病院とは**  
当院は、平成29年8月29日付けで東京都知事より「地域医療支援病院」の承認を受けました。「地域医療支援病院」は、かかりつけ医を支援しつつ、高度・専門的な医療を提供する地域の中核病院のことです。

●詳しくはこちらをご覧ください↓

外来	
救急	
休日診療	
・アクセス 駐車場	

### 救命救急センター（救急外来）の受診について

【対象】一次救急（直接来院）、二次救急（救急車）、三次救急（ホットライン）  
【受付時間】一次救急 平日時間外（17時～翌朝8時）、土日祝日（朝8時～翌朝8時）  
二次救急および三次救急は24時間対応

当院は西多摩医療圏（4市3町1村）で唯一の救命救急センターであり、年間20,000人（うち二次・三次・ヘリ救急6,000人）の救急患者さんの受入れを行っているため、大変混雑します。診察の順番は、患者さんの重症度・緊急性を最優先とするため、来院（受付）の順番と診察の順番は異なります。救急車が複数台来院している場合は、一次救急の待ち時間が長くなったり、救急車で来院であっても、状態によってお待ちいただく場合があります。ご理解をよろしくお願いいたします。

### 一次救急（直接来院）の患者さんは、青梅市休日夜間診療所でも診察しております！

【受付時間】平日夜間19:45～22:30、土曜日18:00～20:45、日祝日9:00～21:45  
詳しくは青梅市ホームページ（休日診療・平日夜間診療）をご覧ください。

## かかりつけ医を持ちましょう

**かかりつけ医とは** 日頃の診療のほか、健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のことです。

**事前予約について** かかりつけ医に紹介状を書いてもらう際にあわせて当院の予約も行ってもらいます。来院時の受付手続きの時間も短くなります。

かかりつけ医検索はこちら



## 通院支援アプリ「コンシェルジュ」について

患者サービスの向上として、後払いによる会計待ち時間の解消などを目的に、スマートフォンアプリ「コンシェルジュ」を導入しています。

- 主な機能として
- らくらく会計
  - かんたん予約確認
  - 診察日等、前日のリマインド通知
- などがあります。

アプリをインストールするだけでは利用できません。総合受付や各ブロック受付等で発行しますQRコードで利用者登録を行う必要があります。

詳しくは、院内に置いてありますリーフレットをご確認ください。



HOPE LifeMark-コンシェルジュ

はじめの登録ご利用案内

かんたん予約確認 予約確認

診察前日の自動お知らせ リマインド通知

診察の順番がくると通知 診察状況お知らせ

スマートフォンでお手軽会計 らくらく会計

2023年11月作成 市立青梅総合医療センター

**院内無料 Wi-Fi のご案内**  
当院では、院内無料Wi-Fiが利用できます。

SSID	Free_Wi-Fi_OMC
パスワード	omc18wifi

新病院本館の1階と2階で利用可能な無料Wi-Fiです。また、各病棟のフロアでもWi-Fiが利用できます。